

平成18年度 事業評価書

地 域 名	北海道稚内市	選定年度	H17年度	事業規模	小規模事業
まちづくり協議会名	稚内新エネルギー研究会				
モデル事業名	風と燃料電池で築く環境最先端のまちづくり事業				

1. 事業の実施状況

委託事業	H17年度	普及啓発事業として、新エネルギーのシンポジウム・フォーラム、市民環境セミナー、定期活動報告会を開催。また、広報誌や新エネルギー啓発パンフレットを作成。
	H18年度	普及啓発事業として、燃料電池設備の公開による環境学習、地球温暖化問題の理解とCO2削減啓発のための市民環境セミナー、シンポジウム、フォーラム等を開催。また、広報誌や新エネルギー啓発パンフレットを作成。
交付金事業	H17年度	燃料電池設備設置事業として、稚内市が所有する風車を利用して、稚内公園のゲストハウスに燃料電池を設置。
	H18年度	既設燃料電池への増設とヒートポンプ設置事業として、前年度導入の燃料電池の同方式の燃料電池を増設するとともに大気吸熱型ヒートポンプを設置。

2. 評価・分析

①事業の特色・モデル性	<p>今後の水素社会の構築を視野に入れながら、豊富な地域資源である風力などの自然エネルギーの活用を進めていこうとするものであり、多くの関係者が熱心に取り組んでいる。風力発電の電力で水を電気分解することにより得られる水素を燃料電池に用いることにより発電するという先駆性が見られる。</p> <p>他にも環境教育研修施設「風のがっこうわっかない」の建設・運営を計画しており、風、太陽光、バイオ等の新しい活用システムの提案や環境教育の場として利用するなど、市民等の環境意識の向上が期待できる。</p>		
②環境保全効果 (二酸化炭素排出削減効果等)	二酸化炭素排出削減効果	備 考	
	目標値	29.9	H17年度事業分
	実績値	1.0	H17年度整備施設のH18年度稼働実績
(目標値・実績値単位:t-CO2/年)			
	<p>燃料電池設備の火災による改修が長期にわたったことや燃料電池の運転にリフレッシュ時間が必要となったことから、二酸化炭素排出削減実績は目標を大きく下回った。運転時間の見直し等による目標設定の再検討が必要。</p>		
③経済活性化効果	<p>平成18年度は燃料電池設置による電力費削減効果は燃料電池の改修工事や運転時間の見直し等によりあまり得られていないため、来年度以降の効果について検証する必要がある。</p> <p>一方、視察者、見学者による経済活性化効果は得られており、環境最先端のまちとしての魅力を活かしたより一層の効果进行を期待する。</p>		
④その他			